

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 3 月 17 日

事業所名 障害児通所支援 みによん

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	100			プレイルーム、訓練室、更衣室等適切である。	
	2	職員の配置数は適切である	100			人員配置基準を十分に満たしている。全員が有資格者である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	100			風除室・トイレ・事務所・訓練室等全てバリアフリーとなっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標 設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100			提供終了後に、ミーティングにて業務の振り返りをし、課題について話し合う機会を設けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100			保護者向け評価表の結果をもとに職員間で話し合い改善・検討を行なっている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100			年度末にホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100				現在は行っていないが、前向きに検討中していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100			研修計画を作成し、計画に沿って研修に参加している。伝達研修も行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100			アセスメントを行い支援計画を作成するにあたって、保護者と面談を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100			個々の発達を評価するアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100			次年度事業計画策定会議を行っている。月間予定についても職員会議にて立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100			固定化しないよう行事を取り入れたり、外部講師を招いている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100			月間予定を作成。長期休暇中は、朝からの提供のため外出先等工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100			視覚支援や課題等、利用者の障害特性や発達段階に応じた計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100			日程表(紙面)にて、周知・確認をしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100			支援終了後に、ミーティングにて情報共有をしている	休みの職員に引継ぎできるように配慮していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100			行動記録のみではなく、職員が対応して結果についても記録し検証・改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100			年2回モニタリング実施。月1回の目標設定・評価を行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100			ガイドラインに沿った支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100			児童発達管理責任者が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100			保護者を通して行うことが主であるが、送迎時に学校側とも連絡調整を行なっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100			現在、医療的ケアが必要な児童は利用されていない。服薬については、お薬手帳を提示していただいている	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100			状況に応じて行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100			状況に応じて行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100			状況に応じて行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33.4	33.3	33.3		近隣の公園や公共の施設にて交流の機会を設けているが、具体的なものを今後、検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100				今年度は参加する機会がなかったが、要請があれば参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100			連絡帳や迎え時に口頭にて行っている。また、年2回面談を行っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100				現在、ペアレントトレーニングは行っていない。家族で参加できる行事を予定していたがコロナ禍のため実施できなかった。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100			変更があった場合は、重要事項説明書変更届にて保護者へ説明し同意をいただいている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100			保護者より、相談があった場合は、随時必要な助言と支援を行っている。	事業所側から、保護者の悩みを引き出せるよう工夫していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100				芋煮会・親子遠足を予定していたがコロナ禍のため中止となった。今後も保護者同士が連携できる行事を企画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100			権利擁護委員会を設置し、苦情があった場合は迅速に対応できるよう心掛けている。年2回、第三者委員会も実施している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100			法人として会報誌を年4回発行している。その他、月間予定表の配布、日常の様子をブログにアップしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100			十分に注意している。個人情報同意書に同意いただいている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100			個々の障害の特性に応じ伝達方法を工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33.4	33.3	33.3		高齢者施設への訪問を予定していたがコロナ禍のため中止となった。事業所へ招待する機会を検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100			各種マニュアル策定済。	年1回(変更があった場合は随時)、保護者へ周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100			月1回、避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100			研修に参加、伝達研修にて周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100			現在、該当者はいない。	今後、該当者する方が利用された場合は、事前に十分に説明し了解を得た上で計画へ記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100			契約時に、アレルギーの有無について確認をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100			作成し共有している。ヒヤリハットがあった場合は随時、会議を実施し対応策等について周知している。	